

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
所管課(室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	圧縮処理等を活用した県産材の性能向上技術の開発	木材の寸法安定性、難燃性等を付与する高付加価値化技術は数多く開発されているが、設備投資を含めたコストの問題が実用化への障壁となっている。したがって、県産材の用途拡大に向け、簡便な処理で性能向上を図るための高付加価値化技術を開発する。	常温下での圧縮処理をベースとした、耐候性、寸法安定性に優れた処理技術を開発し、開発した製品の性能評価を実施する。 なお、技術開発にあたっては、既存施設の活用を視野に入れるとともに、材料については間伐材等低位利用材の活用を考慮する。	18	22	A	従来の塗装処理とは異なるスギ外壁材製品、表面圧密した床暖房用フローリング製品の開発の見通しが立ちつつあり、性能評価を中心に、継続実施する必要がある。	間伐材を利用できるので山林環境の整備にも人間の健康にもとても良い健康だと思ふ。しかし、一部の工務店のみがわかるのではなく、広く県民に周知できるように県の施設を利用したPRも必要ではないかと思ふ。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	県土の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	伐採適齢人工林の混交林化	伐採適齢期を迎えたスギ人工林の伐採後に、再造林木の植栽をしないので、かつ、森林荒廃を起こさない低コストな森林の更新技術を開発し水土保全に適した針広混交林に誘導する手法を確立する。	人工林を伐採して収穫する際に、本来ならば支障木として切り捨てて放置される曲木、劣勢木等を残置し、水土保全機能を保ちつつ、周辺の林や埋没種子からの実生により、混交林化を図る手法を開発する。	18	25	B	データの蓄積途上であり、施業方法の検討と併せ、継続した調査が必要である。	
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	県産木材を用いた大断面構造柱の開発	建築基準法の改正により、大規模建築物への木材の利用範囲が広がったことから、美観や環境適合性に優れた大断面構造柱を開発することにより、県産木材の需要拡大を図る。	県産材を主要部材とした、性能指標が明確な大断面構造柱を開発するため、構成条件や接着条件の検討、ならびに試作製品の強度性能評価等を行う。	18	22	C	建築設計に関する状況変化により、新たな仕様の構造材については、個々に大臣認定等の公的認証が必須となり、活用指針等での利用啓発を図ることとした当初の目標達成は困難な状況にある。(期間短縮)	
4	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	中山間地域振興を目的としたきのこ栽培技術の開発	地域の社会的、環境的条件に適合した、複数きのこを組み合わせた栽培形態を確立し、定住の促進等による中山間地域の振興を図る。	ブナ代替原木による原木ナメコ栽培や、季節に応じたきのこの組み合わせによる栽培を検討し、低い投資額と労働力で高齢者等でも容易に取り組める栽培技術を確立する	18	22	B	研究成果は、中山間地域の振興に寄与するものであり、研究成果は目的を概ね達成している。(終了)	